第２　教育研究団体の意見・評価

○　全国英語教育研究団体連合会

（代表者　博田　英明　　会員数　約60,000人）
ＴＥＬ　03-3267-8583

１　前　　文

1990年から2020年まで実施された「大学入試センター試験」が廃止され，2021年より「大学入学共通テスト」が新たに開始され，今年で３年目となる。従来のセンター試験からの変更点は，配点が50点から100点へと倍増したこと，「多様な話者による現代の標準的な英語を使用する」という観点から「イギリス英語」も使用されていること，さらに「１回読み」問題が導入されたこと等があったが，受験者にとっては少しずつ新しい形式への慣れが出てきているとも思われる。今年度も，「知識の理解の質を問う問題や，思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる問題を重視する」という共通テストの問題作成方針がしっかりと反映されたものとなった。後に詳述するが，形式・内容は前年度と変わらず，難易度については前年度に引き続きやや易化したと思われる。丁寧に準備した受験者にとっては，十分な対応ができたと考えられる。令和４年度から開始された新しい学習指導要領（外国語）では，「統合的な言語活動を通して『聞くこと』，『読むこと』，『話すこと［やり取り］』，『話すこと［発表］』，『書くこと』の五つの領域を総合的に扱うことを一層重視する科目」と，「話すことと書くことによる発信能力の育成を強化する科目」がそれぞれ新設された。外国語でコミュニケーションを図る資質・能力を育成するための言語活動を充実させることを目標としており，共通テストにおいてはこれらの目標を反映した作問を引き続き追求していくことが必要である。2023年度の大学入学共通テスト利用大学・専門職大学・短期大学は，870大学となり，内訳は，国立大学が82校，公立大学が94校，私立大学が535校，公立短期大学が12校，私立短期大学が139校，公立専門職大学が２校，私立専門職大学が６校となっている。今後も利用が進んでいくことが予想される。リスニング受験者数は本試験と追・再試験を合わせ464,931人で，前年度の480,052人からは若干減少している。教科選択率は98.1％となっており，英語の成績が文系理系を問わずすべての受験者の大学合否に大きく関与していることがうかがえる。本試験の平均点は，一昨年度（共通テスト⑴）が56.16点，昨年度は59.45点，今年度の平均点は62.35点であり，前年度よりも2.9点上昇し，60点を超えた。共通テスト実施３年目で，受験者がしっかりと事前に準備ができるようになったことも一因であると考えられるが，難易度についてはやや易化したといえる。読み上げられた英語の総語数は約1,541語（昨年度は約1,532語）でほぼ変わらず，設問と選択肢の総語数は約564語（昨年は約562語）で，こちらも前年度並みとなった。

2　試験問題の程度・設問数・配点・形式等

大問	配点	マーク数	出題内	読み上げ回数
1	25	4	A：短文内容一致問題	2
		3	B：短文イラスト問題	
2	16	4	対話文イラスト問題	2
3	18	6	対話文選択問題	1
4	12	8	A：モノローグ図表完成問題	1
		1	B：複数のモノローグ選択問題	
5	15	7	講義内容選択問題	1
6	14	2	A：対話文（２者）選択問題	1
		2	B：対話文（４者）選択問題	
合計	100	37		

出題形式，配点，読み上げ回数については，今年も変化はなく，第１回共通テストから３年連続ということになった。内容面で，イラストやグラフ，表が数多く使用されており，単純な英語の聞き取りに加えて場面や目的に応じた思考力・判断力が問われることや，話者についてはアメリカ人話者やイギリス人話者だけではなく，日本人と思われる非ネイティブ話者が含まれていた部分も昨年度と同様であった。また，各問の解答時間について若干ではあるが改善が見られ，受験者が余裕をもって取り組めるようになった。

第１問　短い発話を聞いて，内容に関する選択肢を選ぶ問いである。Aは短い発話を聞き取り，設問の問いに最も適する選択肢を選ぶ問題。状況を要約したり，発話から推測できることを判断したりする力が求められた。Bでは短い発話を聞いて，設問で求められる内容に合致する絵を選ぶ問題であり，内容を正確に把握する力が問われた。難易度としては標準レベルであり，設定も日常的なもので，短い発話から状況や情景を把握させ，絵という視覚情報を選択させるという設問形式は好ましいものである。短い発話であるため，やや唐突に始まる印象があるが，示された絵から聞き取るべき内容が予想しやすく，受験者も落ち着いて解答できたと思われる。

問１　「とっても似合っているよ」という発言からthe speakerの発言の趣旨を理解する問題。

問２　発言の内容から比較されている３つのものを聞き取り，the speakerの考えを説明する文章を選ぶ問題。

問３　発言の内容からthe speakerの状態を説明する文章を選ぶ問題。

問４　「歯医者が何時に開くか知っている？歯がとても痛むんだ。」という発言の内容からthe speakerの状態を説明する文章を選ぶ問題。

問５　「ギターはケースに入ってテーブルの下にある」という発言と合致するイラストを選ぶ問題。inside the case， under the tableにしっかりとポーズも入っているので，取り組みやすい。

問６　「これらのスプーンは汚れている。しかし引き出しに別のスプーンがある」という発言で，theseやanotherが聞き取れれば解答できる問題。

問７　「木のところで左折してまっすぐ行くと右手にアパートがある」という内容を聞き取って，その内容に合致する絵を選ぶ問題。

第２問　短い対話を聞き，設問に合致するイラストを選ぶ問題。日本語で示されている場面の情報を把握し，聞いた内容から適切なイラストを選ぶという複合的な作業を求めている。これま

でにもあった形式ではあるが，設問に示されている日本語の情報把握が重要である。短い時間の中で，複合的な作業を素早く行うことを要求しているため，与えられる状況は日常生活に根差している事柄や，現代的なテーマを用いることによって，受験者にイメージしやすいものが設問とされることが望ましい。難易度としては標準レベルであるが，イラストの設定については，今年は思考に負担をかかるようなものは少なく，改善されたと感じるので，今後もこの傾向が維持されることを期待する。

問８　対話の内容から男性が学んだstageを選ぶ問題。教科書の内容（絵）について話をしているという場面設定も好ましい。また，Didn't you know that?という否定疑問文の受け答えに対する理解が必要とされる。

問９　文化祭で販売するエコバッグのデザインを選ぶ問題。Definitelyの意味を理解することが必要となるが，pocketやbuttonなどのキーワードは聞き取りやすい。

問10　キャンプ場で電話をしている妹が兄のテントを選ぶ問題。示された絵も分かりやすく，平易な問題であった。

問11　観光の予定ルートを選ぶ問題。ピクトグラムが扱われるのは３年連続である。ピクトグラムが示す内容についても把握しやすく，配慮が感じられるものであった。

第３問　短い対話を聞き，設問に合致する最も適切な選択肢を選ぶ問題。第２問と同様に，日本語で示されている場面の情報を把握し，概要や要点を目的に応じて把握する力が問われている。「多様な話者による現代の標準的な英語」が使用されているという点でも，この問題は好ましいものであると考える。

問12　男性が電車より車を選ぶ理由を問う問題。

問13　会話の内容からこの後女性がとる行動を問う問題。poundの発音や選択肢のpostageの意味はやや慣れが必要かもしれない。

問14　会話の内容から男性と女性がとる行動を推測する問題。「観たい映画を話し合う」という場面設定も日常生活に根差しており好ましい。

問15　誰と食事をしたのかを問う問題。選択肢のniece，nephewという単語だけを見て答えると誤答となる。対話中のallやtwo boys，three girlsなどを正確に聞き取る必要がある。

問16　レストランでの夫婦の会話。夫婦間に限らず，日常生活で頻繁に起こる場面である。

問17　男性と女性の同僚との会話。女性のI've parked just around the cornerの聴解ができないと正解を選ぶのは難しいかもしれない。

第４問　Ａは読まれる説明を聞き，図表を見ながら空所を埋めていく問題。今年は昨年度出題されたイラストを時系列に並べる問題ではなく，令和３年度に出題されたグラフが再び扱われた。ただし今年は棒グラフではなく，折れ線グラフでの出題となった。Ｂでは，四人の話者の説明を聞き，設問に合致する選択肢を選ぶ問題。複数の情報を聞き，情報を比較しながら思考する力が問われている。聞き取った内容と資料を結び付けて考えさせる問題は，日々の授業運営にも影響を与えるものとして望ましいと考えているが，解答にはある程度の時間がかかることも引き続き考慮されたい。

問18～21　クラスメートの発表を聞いて，大学の授業で配られた資料のグラフを完成させる問題。具体的な数値の読み上げはなく，increase， decrease， rise， dropなどの増減に関する動詞とcontinuous，consistent，stableなどの形容詞の組合せにより４つのグラフが説明された。実際のプレゼンテーション等においても，具体的な数値の羅列よりも説明的な描写の方が聴衆にとっては理解しやすい説明となる場面は多々あり，非常に好ましい設定である。

問22～25　フィットネスクラブの料金プランの説明を聞き取り，適切な選択肢を選ぶ問題。示

された表に従って説明がされるので，落ち着いて解答できると思われる。

問26　国際会議の会場を１つ決めるために，四人のスタッフが推薦する場所の説明を聞き，条件に合うものを選ぶ問題。

第５問「美術館のデジタル化についての講義」を１回聞き，設問に合致する最も適切な選択肢を選ぶ問題。ワークシートとして示されているものを活用して，ノートテイキングをすることが必要になる。聞き取った内容とグラフから読み取れる情報を組み合わせて要点を把握する複合的な作業を必要とする。情報を素早く正確に把握・整理する必要があり，高い集中力が求められ，難易度としては高い。日々の授業運営にも影響を与えるものとして望ましい出題である。講義を聞きながら順番にワークシートを埋めていけるようになったことで，解答に取り組む時間も改善がみられた。受験者も昨年度と同様の形式であったため，十分に準備することができたと思われる。

問27～32　ワークシートに入るべき事項を選択肢から選ぶ問題と講義の内容を選択させる問題。１回読みで，なおかつ情報の処理や解答行動のための時間をある程度要するが，次の音声が流れるまでの時間についてはやや改善がみられた。また，上述のように，流れる音声にしたがってワークシートを埋めていくことができることで，スムーズに解答できるようになった。音声で使用される語とワークシートに示されている語が異なっている（specific，detailed）ことで，語彙力や要点をまとめたり言い換えたりする能力を問うことができる良問である。ただし，上述のように難易度としては高い。

問33　図から読み取れる情報と講義全体の内容から言えることを選択する問題。「金銭的及び人員的問題があるにもかかわらず，10以上の美術館がすでにオンラインに展示ビデオを置いている」が正解。解答するに当たり，本問の音声を聞く必要性は実は高くないように思われる。

第６問　Ａは「今度行く旅行について」の二人の会話を聞き，設問に合致する最も適切な選択肢を選ぶ問題。話者の発話の要点を把握する力が問われている。Ｂは「卒業研究」に関する四人の学生の会話を聞き取り，設問に合致する最も適切な選択肢を選ぶ問題。昨年同様，それぞれの話者の立場を正確に把握し，意見に合う図表を判断する力が問われた。話者の声や英語にそれぞれ特徴があり，それぞれの名前も頻繁に登場するので，誰の発言なのか分かりやすく，配慮が感じられた。また，話者の一人（Aki）は日本人であるように聞こえる。

問34～35　日本語で書かれた状況を踏まえて，話者の主張の要点と合致する選択肢を選ぶ問題。問34では対話の終盤のManaの発言におけるit’ll be worth itの聴解が求められる。これに対して問35は問34よりも前の二人の発言“I hate carrying heavy luggage.”“I do, too, …”が解答の根拠となる。１回読みの問題でもあるので，音声の流れに沿った設問の方が受験者の負担は減ると思われる。

問36　四人の話者のうち，何人が単独の研究を選択したかを問う問題。

問37　会話の内容を踏まえて，ある話者（Aki）の意見を反映している図表を選択する問題。正解となる図表のタイトル（Top Three Important Leadership Skills）からすると，項目は３つ以上あるほうが自然ではないだろうか。

３　総評・まとめ

「大学入学共通テスト問題作成方針」に示されているように，「高等学校教育の指導のねらいとする力や大学教育の入口段階で共通に求められる力を踏まえたものとなるよう，出題教科・科目において問いたい思考力・判断力・表現力等を明確にした上で問題を作成する」という方向性を反映

した問題であった。例えば，聞きとった内容から話者の次の行動を推測したり，発言の内容から話題についての話者の態度（肯定的か否定的か等）を判断したりするという行為は日常生活でも頻繁に行っていることであり，英語を使用する場面や状況であっても欠かせない。こういった出題傾向が継続することで，教育現場での授業への波及効果がより高まることが期待できるし，それが実際に英語を運用する能力の向上にもつながると考えられる。また，第４問以降で扱うトピックの選定については大変工夫をされていることと感じる。英語に限らず様々な授業で扱われたり，日常的に社会で話題となったりしているようなトピックについては，受験者は予備知識を持ったうえで解答に臨むことができる。したがって一部の問題については，受験者の持つ知識と与えられた文字情報により，問題の内容を予想することが可能となる。このような問題は，話される内容を予測したり，聞き取るべき内容やポイントをあらかじめ用意してから聞いたりという能動的に聞く態度が必要とされるので，望ましいものであると考える。

４　今後の共通テストへの要望

報告書（本試験）の方に記載。